

ローリングストックの呼びかけ

ローリングストックとは

ローリングは「回しながら」、ストックは「備蓄」という意味で、普段から食べ慣れているものを多めにストックし、被災時に備えようという考え方です。

災害が発生して避難所に避難しても、十分な非常食が保管されていないか、物資の流通も困難になったりするかもしれません。現在、行政からは1週間分の水と食料を各自で確保することが推奨されています。



災害時コープいしかわの宅配はどうなるの？

コープいしかわの**危機管理** 災害の中でも事業を継続して組合員への責任を果たすために、コープいしかわには緊急時に備えた事業継続計画(BCP)があります。風水害、雪害など事業に大きな影響が出る場合は緊急時の対策を判断します。

基本的な考え方

できる限りお届けすることを基本としますが、安全面を考慮し、配送を中止・断念する可能性があります。

このような場合
配送を継続するか
中止するかを判断します

- 警報の発令があり、運転・荷下ろしに支障がある場合
- 3分の1以上の配送担当者が出勤できない場合
- 幹線道路・生活道路の通行が不可能な場合 ※左記以外にも諸条件があります。

緊急時のお知らせ方法

コープいしかわからの情報発信手段

インターネットや
電話の通信が
可能な場合



コープいしかわ 検索

コープいしかわ ホームページ

フェイスブック

インスタグラム

※SNSでは、ホームページに欠品などの
お知らせがあることを発信する場合もあります。

お知らせする内容

- 配送ができるか、大幅な遅れが発生しているか
- 配送できない商品が発生しているか
- コールセンターがつながりにくい状況になっている など

状況に応じて、お届けできないカタログを
ホームページ上で掲載するなど、注文方法のご案内をします。

平時に確認しておこう！

お問い合わせ手段

■ コールセンター 0120-759-853
または 076-275-9853

月～金/8:30～20:00 土/8:30～14:00
※携帯電話からもつながります。

■ Webからのお問い合わせ

<https://www.ishikawa.coop/contact/form/>

※メールでのお問い合わせは回答に
お時間をいただく場合があります。



平常時に考える 緊急事態

東日本大震災から10年。これまで経験してきた地震や台風、雪害などの大きな自然災害を教訓として、コープいしかわが取り組んできたことを振り返ります。

特集

防災・減災

災害時に助け合うつながり

大規模な自然災害時には、全国の生協から被災地へ職員を派遣し、災害ボランティアセンターの運営支援などにあたります。阪神・淡路大震災や東日本大震災がきっかけでした。

2018年 西日本豪雨災害



全国の生協職員が集まり、力を合わせることで大きな力となれることに気づきました

2019年 台風19号



長野市に1名を派遣。炊き出しを担うボランティアの受け入れなどを行いました。

2016年 熊本地震



益城町へ1名を派遣。コープいしかわからのメッセージも届けました。

緊急募金の定着

「被災した人たちや地域のために、できることを」という組合員の思いに応じて、大規模な被害が発生した自然災害の際には、宅配や店舗で緊急募金を実施しています。



大きな被害のあった信州産直組合へお見舞金をお渡し(2018年)

募金の送付先は日本生協連だけでなく、2019年度からは日本赤十字社石川県支部や石川県共同募金会へも贈呈しています。

ご協力
ありがとうございます
//

全自治体との災害時支援協定

コープいしかわは石川県および全19市町と「災害時支援協定」を締結しています。

県内で避難所が開設されたときに行政の要請に応じて、おにぎりやパンなどを供給しています。また自治体の避難訓練にも参加しています。



避難所へおにぎりをお届け(2017年)

石川県防災総合訓練(2017年)

大雪を教訓に

2018年2月に発生した大雪では、配達できない商品の発生や配送の遅れ、一部地域で配送の断念など多くの組合員にご不便をおかけする状況となりました。

2018年の雪害を教訓に、自宅前の除雪状況を報告するモニターの実験導入、配達職員の安全を考えた危機管理マニュアル改定、WebやSNSを運用した情報発信・通信手段の周知などに努めてきました。



2018年の大雪